

～ブロック懇談会のこれまで～

高齢者へのより細かな支援をする為、介護予防事業の一環として
月寒地区を4つのブロックに分け、平成20年度より懇談会を開始した。
平成22年度からは更に少人数にするために5ブロックとした。

平成20年度

一月寒で暮らし続けるために今できることは—

「地域でなぜ“孤立”が生まれるのか」
「地域での“孤立”を予防するには」との
テーマで開催された。

「町内会長・民生委員・ボランティアが
お互いの顔を知らない」との課題も出た
が、「孤立した高齢者を発見通報した事例」
や「高齢者に対する支援が先輩から若手へ
と上手に引き継がれている」など、少人数
だからこそ話せるぎっくばらんな話題も
出た。



平成21年度

—地域で暮らす認知症の人—

家族に“認知症”の人がいることを隠
したが、家族で抱え込む傾向にあると
いう実状。でも、それが家族の負担を倍
増することにもなる。隠さずに近所の人
に助けを求めることができるように信頼
関係をご近所で培えると良いのではない
だろうか。1人暮らし世帯も増え、地域
だけでカバーするのも難しい時代になっ
てきている。“認知症”は病気である。
関係機関と適切な連携をとる事が求めら
れているのではないだろうか。



平成23年度

—マップから見る“つきさっぷの今”—

高齢社会のこれからは必要となることは
一人暮らし高齢者の「安否確認」と「孤立
化防止活動」である。「マップ」に要援護者
や援護者（町内会役員・民生委員・推進員
ボランティアなど）を表示することにより、
視覚で情報をとらえることができ、リアル
な情報を得られる。また、情報を共有する
ことによって相互連携を深められるのでは
ないか。高齢者が「見守られている」とい
う安心感の中で生活できるよう関係機関と
の協力がさらに必要になってくる。



平成22年度

—現代の向こう三軒両隣—

ブロック懇談会も定着し始め、実践
者の生の声が聞かれるようになった。
「個人情報保護法がネックになって
思うように情報を得られない」という
声が多く聞かれるようになり、また、
「向こう三軒両隣なんて今の時代無
理だよ！」との声も聞かれた。が、地
域で暮らし続けるためには隣の人に
良い意味での関心を持ち、“助け合い”
の精神や“お互い様”の気持ちが必要
なのではないだろうか。



次ページに続く

平成24年度
—地元マップをつくろう—

単位町内会毎の住宅地図を作成し、要援護者の家や町内会の役員・民生委員・推進員やボランティアの家にもシールを貼り、見守り状況の把握を確認した。作業をしながらの情報交換もなされ、関係者で情報共有が行われた。対象を一人暮らしばかりではなく、高齢者夫婦にも広げている町内も多い。

平成25年度
—見守りの連携を深めるには—

区社協事務局次長の辻氏の講話の中で、町内会単位の見守り体制の実践報告があった。その中で、見守りを願うのはやはり対象者の近所の方が良いとの声が多かった。また、参加者から「高齢者の相談窓口を1ヶ所にできないか？」との質問があったが「間口を広げておきどこに相談しても、どことも繋がるように連携を取っています」とのことでした。

～ブロック懇談会に携わって～

札幌市豊平区社会福祉協議会 事務局次長 辻 岳

私がブロック懇談会に携わったのは平成23年度からの3年間。福祉マップや心配な人リストづくりなど、見守り対象者の把握と共有、連携の取り方をテーマにしてきました。不慣れで右往左往しましたが、福まちスタッフに支えていただき感謝するばかりです。

最近、地域との交流を避け孤立を深めてしまう世帯が増えているように感じます。今年度の実践発表のような活動を広げることが、そういった課題を克服するカギだと思います。

豊平区社協はこれからも月寒地区の皆様とともに見守り活動を進めます。今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。



まもりん

札幌市豊平区第3地域包括支援センター 次木 円

当センターでは、平成20年よりブロック懇談会に携わってきました。開催当初は、地域の役員さんは来てくれるだろうかと不安を抱いていたことを思い出します。しかし、懇談会を行うごとに高齢者支援の取り組み、連携や見守りのあり方など勉強させていただく良い機会になりました。今後も研修会を通じて町内会や福まち・民生委員・専門職機関が相互に協力し連携していくことができればと思います。

※ 平成18年より札幌市豊平区第2地域包括支援センターが担当しておりましたが、機構変更に伴い平成25年度より札幌市豊平区第3地域包括支援センターが担当しております。



ほッター

札幌市豊平区介護予防センター月寒 坂本有巳子

住み慣れた地域でできるだけ長く暮らしていただくための支援として、平成20年からブロック懇談会に携わってきました。地区それぞれが抱える難しい現状や、その中で様々な試行錯誤を重ねて、より良い取り組みに繋げている事例など多くを知ることができ、改めて地域の力・人の力を感じた研修会でした。こうした地域の力とよりスムーズな連携をとることで、必要な方へ早期に支援できる体制作りにつなげていけたらと思っています。



福まち事務局は こんな活動をしています

総務部

会計処理、施設管理を含め各部（高齢者支援・研修・子育て支援）が円滑に実施できるように、各関係機関と連携および地域事業の参画等調整協力をしています。

また、町内（自治）会で選任された福祉推進員・町内ボランティアの方に保険加入手続きをしています。見守り活動中に怪我等をされたときはご連絡ください。

その他、新任者研修・年2回の研修会やブロック懇談会の案内作成から発送を行っています。

研修部

一人暮らし高齢者の見守り活動を実践する福祉推進員ならびに町内ボランティアの方々に地域の見守りなどの福祉活動について理解を深めていただくために研修会とブロック懇談会を開催しています。

平成25年度第1回研修会は、札幌市社会福祉協議会 柏 浩文氏をお招きし「公的サービスと福まちの役割について」の講演をいただきました。第2回目は「孤独の中で苦しむ人に寄り添う」と題し、北海道いのちの電話理事長 南 楨子氏に講演いただきました。

8～9月はブロック懇談会「見守りの連携を深めよう」をテーマに豊平区社会福祉協議会事務局次長 辻 岳氏に月寒の地域福祉についての講話と、福祉推進員の実践発表をしていただき情報交換をしました。



高齢者支援

◎各町内（自治）会へ、町内にお住いの一人暮らしの方（70歳以上）の見守りを推進しています。

◎見守り対象者の把握と確認の為に名簿を作成しています。

◎その他に次の事業も行っています。

☆サロン合同交流会・・・月寒で設立している10サロンの活動報告・情報交換をして交流

☆異世代交流会・・・子育て中の親子とすこやかくらぶ（65歳以上のみなさん）との交流

☆にぎにぎランチ交流会・・・月寒児童会館を利用している小学生と近隣にお住いの方と

おにぎり作りを通しての交流

みんなが月寒で安心して暮らし続けられるよう地域の方と連携を取り合い支援をしています



子育てママのクッキング



子育て支援

11月25日(月)10時から大人気の事業がありました。

お母さんが調理中は別室で子育てボランティアさんや民生委員さんの託児付なので安心して調理が出来、終了後はお子さんと一緒に試食をしてもらいました。

今年は“明治”の栄養士さんから

- ・ポテトパンケーキサラダ添え
- ・きのこポークのクリーミーカレー煮
- ・トマトとヨーグルトの爽やかムースの3品を食生活改善推進員さんのサポートで作りました。

お母さんからの声

- ・手軽に作れてレパートリーが増えてうれしい
- ・託児付でリフレッシュが出来た
- ・年に1回しかないのが残念

Etc.



月寒公民館 料理室



月寒公民館 第3研修室

福まちからの お知らせ

平成26年6月3日(火)から毎月第1火曜日は
常設サロン(あんぱんサロン)を月寒公民館で開設します。

会場: 月寒公民館2階和室A

(月寒中央通7丁目8-19 ☎851-0482)

時間: 10時~14時45分

★当日は福まちセンターでのサロンはありません

子育てボランティアさんを募集しております

公民館でのサロン・イベントの際に託児のお手伝いや一緒に遊んでいただける方
ご連絡をお待ちしています!! (☎857-2370)